



KYGNUS SUNOCO Team LeMans

2013年 全日本選手権 スーパーフォーミュラ

#7 Team KYGNUS SUNOCO YAMATO

第1戦 レースレポート



開催日	予選：2013年4月13日(土)	ドライバー	平川 亮
	決勝：2013年4月14日(日)		順位
サーキット	鈴鹿サーキット (1周 5.807km)	シリーズ ランキング	平川 亮 : 8位 / 1ポイント(今回1)
決勝周回数	51周 (296.157km)		チーム (#7 + #8) : 6位 / 3ポイント(今回1 + 2)

■ 19歳の平川亮デビューレースで8位入賞、ポイントを獲得

2013年スーパーフォーミュラ開幕戦は恒例の「鈴鹿2&4レース」で始まる。Team KYGNUS SUNOCO YAMATOの平川亮デビューレースは、予選決勝ともに天候に恵まれたこともあり観客も多くメインスタンドは家族連れなどで埋まっていた。

予選 (天気：晴れ / コース：ドライ)

気温16度という春の陽気の中、予選は19台でQ1(20分間)、14台でQ2(7分間)8台でQ3(7分間)のノックアウト方式で行われた。ルーキー平川は午前中に行われたフリー走行では1分38秒487で6番手に着け、予選に向けて手応えを掴んでいた。13時50分予選開始。Q1の走り始めは午前中にアタックしたタイヤでバランスを確認。2号車の2コーナー出口でのクラッシュで赤旗、一時中断するも残り13分で再開される。Q1はクリアラップが取れず5番手、クリアラップを狙って先頭でコースインしたQ2は6番手、Q3は8番手で予選を終える。ルーキーとしては6番手でQ3に進出する非凡なところを見せる。この予選では7台がコースレコードを更新し、1秒以内に10台が轟く結果となった。

決勝 (天気：晴れ / コース：ドライ)

決勝のグリッドは、前に佐藤琢磨、横に中嶋一貴という元F1ドライバーに囲まれる形のスタートとなり、51周約300Km近い距離で決勝が争われた。14時30分フォーメーションラップが始まる。1周のフォーメーションを終え、いよいよSFデビューレースのスタート。8番グリッドからのスタートは無難にこなすもオープニングラップを10位で戻って来る。6ラップ目で15号車の佐藤琢磨にジャンプスタートのペナルティーが出て平川は9位に浮上。その後は硬直状態で各車がピットインするまで9位を走る。24ラップ目でピットイン。心配されたピットワーク停車位置もピタリと決めてタイヤ交換と給油を行い19秒4でコースに復帰する。アウトラップでありながらも後続車のオーバーテイクを上手く抑え、ここでも非凡なところを見せ粘りの走り続ける。最終ラップ38号車の平手がストップしたこともあって8位入賞でデビューレースを終える。

平川 亮のコメント

予選はQ3まで残れたのは良かったですが、自分としてはQ2からQ3でタイムが伸びなかったのが課題です。決勝では楽しまないと思いましたが。スタートは周りと同じように無難に出来ました。今回300Kmレースということで心配していた体力も問題ありませんでした。レース中のバトルも経験出来ましたし、8位ということでポイントが取れて良かったです。次のレースに向けては予選が課題です。また応援よろしくお願いします。

土沼監督のコメント

予選では公開テストでもいいタイムが出ていたので期待していました。結果的には8位ですがデビューレースとしては上出来でした。レースはスタートで順位を落としましたが、その後は良いペースで走っていましたし、ピットワークでの彼の役割も問題なくこなしてくれ、本番に強いところを見せてくれました。本人はレースで8位の順位では満足していないでしょうが、次に繋がるレースをしてくれたと思います。

